

〒336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和 1-2-4
TEL 048-883-1091(代)
FAX 048-883-1092
メールアドレス seishokyouiku@bapren.jp



1-2-4 MINAMI URAWA, MINAMI-KU,
SAITAMA-SHI, 336-0017 JAPAN
PHONE 81(JAPAN)-48(AREA)-8831091
FAX 81(JAPAN)-48(AREA)-8831092

全日本にキリストの光を
Christ's Light to All of Japan

2026年2月12日

2026~2028 年度 『聖書教育』新プログラムのご紹介

主のみ名を賛美いたします。

いつも『聖書教育』誌をおぼえて祈り、用いてくださり感謝いたします。

2023年度から月刊誌になった『聖書教育』は、3年ごとにプログラムを新たにしています。

2026~2028 年度の新たな3年間の『聖書教育』新プログラムについて、そのコンセプトなどをお知らせいたします。

2026~2028 年度

●総主題

「今、共にキリストを証しするために—新たな『自立と協力』—Part 2」

●各年度テーマ

2026 年度:新たな自立

一つひとつの教会・伝道所は、神の前にかけがえのないキリストの体として、自らの言葉でキリストを証しし、その共同体について語ります。それはさまざまな枠組みを超えた新たな自立てです。

2027 年度:新たな協力

新たな協力とは、助け合うことだけでなく互いの教会・伝道所を知り、尊重し合い、祈りを共にしながら、互いがより豊かにされることです。自立した各教会・伝道所間でのさらなる協力がそこに生まれます。

2028 年度:共にキリストを証しするため

私たちの祈りと願いは、いつも共にキリストを証しすることにあります。それはキリストご自身が私たちといつも共におられ、キリストの福音を私たちに託しておられるからです。

●コンセプト

「毎日開く『聖書教育』、対話が生まれる『聖書教育』」

- ① 共同学習のために
- ② 一人ひとりの学びのために
- ③ 子どもたちの活動のために
- ④ 多様なわたしたちが共にキリストを証しするために

●月刊『聖書教育』の編集目的

2023年度より月刊誌となった『聖書教育』の総主題は、機構改革の主題である「今、共にキリストを証しするための一新たな『自立と協力』」とし、「毎日開く『聖書教育』、対話が生まれる『聖書教育』」をコンセプトとして採用しました。これまでの「聖書の学び」に加えて、「毎日のみことば」を掲載することによって、日曜日と日曜日を結ぶ週6日間でも、一人ひとりが『聖書教育』を日々手軽に開き、みことばに養われながら生活することを願いました。週の前半には日曜日に分かち合ったみことばの振り返り、週の後半には次の日曜日を迎えるための準備の意味が込められています。このようにして月刊『聖書教育』は、生の全領域で私たちを支えると共に、日曜日には互いの意見を分かち合いながら一人ひとりがみことばに聴くことを助け、聖書に向き合う対話の相手として用いられることを願いつつ編集されています。

●2026～2028年度の『聖書教育』新プログラムが変わらず大事にしたいこと

聖書から神のメッセージを聴きとる方向性を大事にしています。これは、テーマから聖書を読んでいくのではなく、まず聖書の各書を読み、そこから神のメッセージを聴きとろうとする方向性です。「毎日開く『聖書教育』、対話が生まれる『聖書教育』」のプログラムコンセプトが、さらに読者一人ひとりに浸透するために総主題は「今、共にキリストを証しするための一新たな『自立と協力』—Part 2」として、「2026年度：新たな自立」、「2027年度：新たな協力」、「2028年度：共にキリストを証しするため」を3年間の各年度テーマとします。月刊『聖書教育』を用いてくださる信仰共同体、そして読者一人ひとりが、みことばによって養われ、主を証しする歩みを進めてくださることを願っています。そして諸教会・伝道所が『聖書教育』によって共に豊かにつながっていくことを祈ります。

●誌面のリニューアルについて

2024年のアンケートでの意見をもとに、3か月に1度「巻頭言メッセージ」の代わりに「概論」を掲載します。学ぶ聖書箇所が編まれた時代背景や、どんな目的で、誰に向けて語られたのか。これらをイメージしながら、みことばから神さまの想いをくみ取りたいと願っています。

そして、ユース世代を心にとめつつこれまでの「共同学習：子どもクラス」は「共同学習：子どもユースクラス」とします。10歳～18歳くらいまでをイメージしながら、メンバーの日常から学ぶテーマを見つめ、自分のことばで意見を分かちえるような問い合わせを含めてまいります。

好評な「ワークシート」、「多様なわたしたちが共に」の記事も、引き続き掲載いたします。

これからも『聖書教育』が果たしてきた協力伝道における役割を確認しながら、そのことに仕えてまいります。『聖書教育』は、私たち一人ひとりが主体的に聖書を学んでいく上で、神と人との対話の中で読むことの重要性を覚え、教会の交わりの中で「神に共に聴く対話相手のひとり」となることをめざしています。

2026～2028年度月刊『聖書教育』が、諸教会伝道所で豊かに用いられることを心から願いつつ、新プログラムをお届けいたします。

日本バプテスト連盟 宣教室長 編集人代行 坂元 幸子
副編集人 磯野 泰子